ケーススタディ　＜大阪府立久米田高等学校の場合＞

2008 年 12 月、大阪府立久米田高等学校は、修学旅行で初めてマレーシアを訪れた。10 年前に韓国で実施したほかは国内での修学旅行を続けていたが、昨年創立 30 周年を迎えたことを機に、もう一度海外へ目を向けてみようと教員主導で検討したという。同校の三宅教諭にお話を伺った。

【実施日時】2008 年 12 月 11 日～15 日
【参加人数】315 名

Q マレーシア修学旅行実施までの経緯を教えてください

A 今回、行き先をマレーシアに決めた理由は、主に安全面、および多文化共生社会の魅力からです。

まずは、実施経験のあるいくつかの学校に資料を見せていただきました。お隣りの兵庫県にはマレーシアに行かれた学校がわりとありますので、 参考にしています。マレーシア政府観光局主催の説明会にも行きました。そこで知り合った方にも資料を見せていただいています。

また、財団法人大阪府国際交流財団に教員の事前研修を依頼し、青年海外協力隊のＯＢから講習を受けました。この財団は大阪の国際化促進を目的として、 国際理解教育に関する人材派遣などを行なっている組織です。

Q 生徒さんの事前学習はどうされましたか。

A 教員の研修をしていただいた青年海外協力隊のＯＢをもう一度お呼びし、学年全体に対して文化や社会、日本との違いなどについて講演していただきました。

さらに、関西にある日本語研修施設にお願いして、クラスごとに数人ずつ、東南アジアからの留学生に来てもらいました。マレーシアだけでなく、東南アジア全域からの留学生です。生徒達は東南アジア自体についてあまりイメージを持っていないので、 ある程度の予備知識があったほうが現地で豊かな体験ができると考え、各留学生に国柄や暮らしぶり、日本に来て驚いたことなどを話してもらいました。中には、「マレーシアには限られた箇所にしか歩行者用信号がないので、日本に来て信号がたくさんあることに驚いた」など、日本の生徒にとっては意外に感じる話もあり、交通ルールの違いを知ること

そのほか、マレーシアの民族舞踊団に本校体育館で公演していただき、民族舞踊の鑑賞もしています。

Q プログラム作りではどういった点をポイントとしましたか？

A 実施経験のある学校の資料を検討した結果、異文化理解の観点から、一つめのポイントとしてカンポンビジットを取り入れることにしました。二つめは、日本とまったく違う熱帯の植物相を見学できる森林研究所を訪れること。三つめが、民族色のある体験学習をすることです。

カンポンビジット(イメージ)

FRM森林研究所

カンポンビジットは半日だけでしたが、日本ではできない経験に生徒は非常に感激しており、印象深かったようです。村の集会所で歓迎を受けてから各家庭で食事をいただくというプログラムで、 村の子どもたちとも交流し、別れ際には泣いている生徒もいました。

滞在していたクアラルンプールの市内は大都会ですから、ものすごく近代化している面と、昔ながらの文化やスタイルが守られている面、その両面のコントラストを体験できたことは大きかったと思います。

Q 今マレーシア修学旅行で得られる教育効果や、その他気がついたことを教えてください

A 教育効果というのは定量化できるものではありませんが、マレーシアが多様な文化、多様な人間を受け入れて成り立っている社会だということは、接した人たちを通じて理解できた生徒が多いと思います。いろいろな人種・民族の人々が行き交っており、 日本人と外見の変わらない中華系の人も、ターバンを巻いたインド系の人も、マレーシアでみんな一つの国民として暮らしている。多様な価値観を持ちながら、一緒に生きていける。そのことを、マレーシア修学旅行で学んでくれたと思います。

バティック染め

また、今回盲腸になって急遽入院した生徒がいたのですが、クアラルンプールの病院は医療技術が高く、上手に治療してもらったようです。幸いにも回復が早く、他の生徒達と一緒に帰ってくることができました。医療面でも、マレーシアは安心できたと思います。

－どうもありがとうございました

◆生徒さんの感想◆（一部抜粋）

「（カンポンビジットの際にカレーを手で食べたことは）僕たちにとっては不慣れな事ですが、現地の人にとってはあたり前、逆に考えれば僕たちがあたり前に使っている『お箸』は異国の人からしてみれば変わった事。それでも異国に行けばそこの文化に合わせる、　それが礼儀。そしてそれらの文化をみとめ合い尊重し合うことができれば、新たな発見があり、これからの人生を生きていくうえで自分へのプラスになり、大きな財産となる。そんな事を考えさせられた修学旅行でした。」

「二日目はカンポン訪問でした。『現地の人と上手く喋れるんかな。』と不安でした。でも、家で迎えてくれたママさんはすごく優しくて、喋りやすかったです。用意してくれていたご飯のナシゴレンは、　前の日に食べた中華料理よりもおいしくて、すぐにみんなで完食しました。（中略）マレーシアの民族衣装も素敵だなと思いました。たくさんの初めての経験をカンポン訪問ではさせてもらいました。最後に家族の皆と別れるのは少し寂しかったです。」

「簡単な英語、単語で自分の想いが伝わった時の嬉しさは今でも忘れられません。普通の旅行では体験できないくらい現地の人と交流できて楽しかったです。」

「自分は英語が苦手だが買い物をするとき、ちょっとした英単語とジェスチャーだけで店員と会話することができた。難しい文法を使わなくても、中学レベルの日常会話と英単語がわかれば観光するには十分だった。私は、ここまで英語は世界に通じるのかと驚いた。マレーシアの共通語はマレーシア語であって、英語ではない。しかし、私達がマレーシアで一般家庭を訪問したとき、その家の奥さんも英語が話せた。（中略）マレーシアに行ってよかったところは、視野が広がり世界に対しての考え方が変わったことだ。」